

# 海外インターンシップ体験記

## インドネシア小学校(AIESEC) 法学部1年 升川 萌子

2012年2月～4月の2ヶ月間(当時北大法学部1年)、AIESEC(アイセック)という学生団体が運営しているインドネシアでの海外インターンシップに参加しました。インターンシップの内容、インドネシアでの暮らしなどをお伝えできればと思います。

### インドネシアの小学校で働く インドネシアでの生活

#### インドネシアの小学校で働く

私がインターンシップで訪れたのは、インドネシアのスマランという都市です。現地の小学校(6年制、生徒数200名)で英語と日本文化を教えるという2ヶ月間のインターンシップでした。インターンシップ中は現地の基督教の孤児院に滞在させてもらっていたため日曜日は孤児院の子ども達と教会に行ってからスマランのアイセックメンバーと遊び、それ以外の曜日は小学校に行っていました。

#### インドネシアでの生活

先述しましたが、2ヶ月間基督教の孤児院にお世話になりました。孤児院のオーナー一家がとても親切で、インターンシップ中に私を色々なイベントに連れて行ってくれたり、人に紹介してくれたり、旅行に連れて行ってくれたお陰で、インターンシップ以外のスマラン生活もとても充実していました。オーナー一家と仲良くなれたのは、私が孤児院の生活リズムに順応出来たからだと思います。2ヶ月間生活してみて感じるのは、インドネシアの生活リズムを語る上でキーとなるのは、「宗教」だということです。インドネシア人はイスラム教徒であろうと基督教徒であろうと信仰心が非常に篤く、毎朝お祈りを欠かしません。私の場合、孤児院のオーナーや子ども達が朝4時に起きてお祈りをするので私も同じようにお祈りをして(基督教徒ではありませんが)賛美歌を歌っていました。私が基督教に関する知識(聖書の物語やお祈りの内容)を少しは知っていたことが、孤児院の人々とコミュニケーションをとる上で役に立ったと思います。孤児院の子ども達が一生懸命インドネシア語で(私がインドネシア語はほとんど理解できないと知っているにもかかわらず!)聖書の物語を私に教えようとしてくれたときにも、どの物語を伝えようとしているのか何となく分かりましたし、何よりも、事ある毎にお祈りをする、教会に行く、賛美歌を歌う集まりをする、といった基督教徒の生活やイベントに戸惑うことなく順応できました。私と同じ時期にアイセックのインターンシップでスマランに来てイスラム教徒の家庭にホームステイさせてもらっていた日本人大学生の中には、朝4時起床→お祈り→6時頃から朝食というインドネシア人の朝型生活を全く無視してステイ先のひ

んしゅくを買っていた人もいたので、やはり現地に密着した生活をするときは生活リズムを現地に合わせた方が良いと思います。多くのインドネシア人は朝型ですが、心配しなくても現地に行ったらたいていの人は 5 時頃に目が覚めざるを得ないはずです。だいたい 5 時頃からイスラム教徒のお祈りの歌が大音響で流れ始めるので、寝ていられる人の方がすごいです。私も孤児院の人々も、その歌を目覚まし時計替わりに起きていました。

#### **インターンシップに参加するにあたってかかった費用総額**

航空券、保険代、現地で使った費用など全てあわせて、約 17 万円でした。孤児院で朝夜の食事を、小学校で昼食を出してもらっていたので食費は殆どかかりませんでしたし、孤児院に滞在費を支払っていたわけではなかったため、現地で使ったお金は 2 ヶ月で 2 万円程度でした。